

## ポブベっくのやさしい投資信託

### 第22回 転換社債に投資するファンド その3

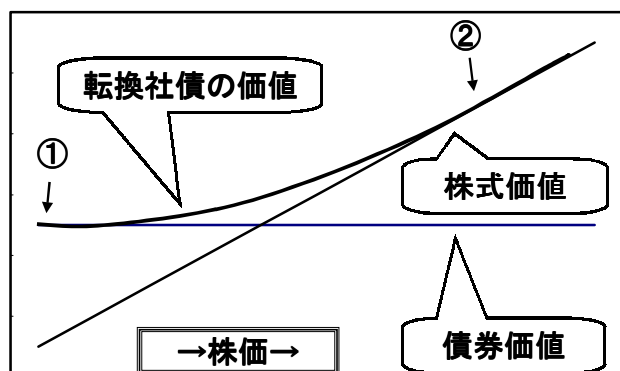
転換社債に投資するファンドの場合、投資方針に注意する必要があります。どんな転換社債に投資するのかによって、そのファンドのリスクは大きく違ってきます。今回は単位型投資信託を例に挙げ、債券価値の高い転換社債を購入する場合には、債券に投資するファンドと同程度のリスクしかない事を説明しました。ただし、その利回りは国債に比べ低い事が多く、更に分散投資をしているとは言え、デフォルトリスクも存在します。つまり、株価が上昇しない事には、収益は上がらないという事です。

今回は、転換社債に投資するファンドについて解説する3回目。追加型投資信託の場合に、転換社債に投資するファンドの注意点を考えましょう。

#### (7) 転換社債ファンドのリスク

##### (d) 追加型投資信託の場合

追加型投資信託の場合に、投資家がファンドを購入する時点でファンドで保有している転換社債が の時点にあるのか、それとも の時点にあるのかというのは、非常に重要なポイントです。



つまり、ファンドマネージャーが購入した時には の位置にあったかもしれませんが、投資家はそのファンドを購入する時に

は、既にその転換社債は の位置に上昇しているかもしれないのです。投資の基本方針（こういった銘柄を購入するのか？）が保守的でも、現在保有している銘柄が、 の時点にいるのか、それとも の時点にいるのかによって、ファンドのリスクは大きく違ってきます。

##### (e) 株式の保有比率

転換社債を投資対象とするファンドはたいてい、株式30%以下という制限がついています。この株式30%以下という制限が曲者です。保有比率の制限は株式30%以下となっても、 株式への直接投資は禁止されているファンド、つまり、保有株式は全て転換したものに限り、直接株式を購入できるファンドがあるのです。同じ30%の保有制限だとしても、直接株式を購入できるファンドの場合、株式のリスクを一部とることで、リターンを高めようとしているのです。従って、そのリスクは の場合と比べ、高くなる事が多いと考えられます。

##### (f) 転換社債ファンドのメリット

「債券価値の高い時に購入するのであれば、債券と一緒になのだから、分散投資をする必要はなく、従って投信を利用する必要もないのではないか？」。こんな疑問を持つ方はいらっしゃいませんか？この疑問に対しては、転換社債型ファンドの二つのメリットを指摘しておきましょう。一つは、デフォルトのリスクを小さくするという事です。転換社債は事業債の一種であり、その会社が倒産すれば、当然、元本は返ってこなくなります。実際、3年前に経営破綻に陥ったヤオハンのCBは、額面100円に対して10円しか投資家には戻ってこなかったのです。そうしたリスクを避けるには、分散投資で倒産した時の被害を少なくする事、プロの運用によって、そういった銘柄を避けて投資する事が必要であり、そのために投資信託は有効な手段と考えられるでしょう。二つ目の転換社債型ファンドのメリットは株価の上昇に対する期待です。一

銘柄に集中投資するよりも、分散投資によって数十銘柄に投資した方が、株価が上昇する銘柄を保有している確率も高くなります。投資金額を何倍にもする必要はないのです。投資した数十銘柄のうち、数銘柄が上昇するだけで、債券を保有するよりもずっと良い利回りになるのですから。